

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：警察費 項：警察活動費 目：一般警察活動費

事業名 人材育成強化事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

警察本部 警務部 教養課 電話番号：058-271-2424 (内 2711)

交通部 交通指導課 電話番号：058-271-2424 (内 5111)

警備部 警備第二課 電話番号：058-271-2424 (内 5761)

E-mail：c18873@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 8,164 千円 (前年度予算額：2,165 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,165	0	0	0	0	0	0	0	2,165
要求額	8,164	0	0	0	0	0	0	0	8,164
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

大量退職・大量採用が継続する中、執行力の維持・強化を図るためには若手警察職員の早期戦力化が必要であり、そのためにも職員の能力を最大限に引き出す効果的な指導・教養が求められている。また、早期退職による初期投資の損失防止や精神疾患及び非違事案防止等の対策として、採用後の適正検査を行うほか、加えて、災害発生時に迅速・的確な対応ができる人材を継続して育成する。

(2) 事業内容

- ・採用後適性検査の実施
- ・若手警察官に対する警察本部における実戦実習の実施
- ・若手警察官及び事務職員に対する集合教養の実施
- ・災害現場活動を担う警察官の育成

大型車両運転士、小型無人機オペレーター、油圧ショベルオペレ

ーター資格の取得

(3) 県負担・補助率の考え方

岐阜県警察職員の教養・人材育成に関するもので、県民の安全・安心に寄与するものであることから県負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無し

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	673	実戦実習及び集合教養の実施
需用費	9	チェーンソー特別教養テキスト代
役務費	310	採用後適性検査の実施
委託料	6,605	大型車両運転士・小型無人機オペレーターの育成
その他	567	油圧ショベルオペレーター研修、チェーンソー特別教養の受講
合計	8,164	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

Ⅱ-2-(2)-③ 犯罪・交通事故防止の推進

(2) 国・他県の状況

全国的に大量退職・採用期にあり、若手警察職員の育成・早期戦力化は喫緊の課題である。

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/>	新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 若手警察職員の早期戦力化に向けた各種教養の実施、災害活動の担い手となる人材育成に向けた取組を推進する。警察本部における実戦実習及び集合教養受講者の受講を毎年 100%実施する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H29)	R2 年度 実績	R3 年度 目標	R4 年度 目標	終期目標 (R)	達成率
						%
① 警察本部における 実戦実習受講者数	117 人 (H29)	61 人	94 人	/	/	%
② 集合教養受講者延 べ人数	195 人 (H29)	156 人	106 人	/	/	%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・チェーンソー特別教育受講 3名（予算要求執行所属機動隊） ・小型無人機オペレーター講習受講 1名 ・管区機動隊及び方面別機動隊員の大型車両免許取得 13名 ・油圧ショベルオペレーター講習受講 4名
令和 3 年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和 4 年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 2	警察の基盤構築につながるもので、事業の必要性は高い。
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	若手警察職員の実務能力の向上や将来構想の一助となるだけでなく、対応した指導員のやる気にもつながり相乗効果が見られる。
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	実戦実習において、日勤勤務時に複数の教養を組み込むことで、全体の勤務日数を短縮して内容の濃い実習となった。また、集合教養も含めて対象職員を見直すなどの効率化も図った。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>若手警察官の大量採用とベテラン警察官の大量退職に対応するには、若手警察官の早期の戦力化が不可欠であり、若手事務職員にあっても警察組織を支える重要な担い手として早期に有能な人材へ育成することが急務となっている。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>県民の安全・安心を守るためには、県民の期待と信頼に応える強い警察を構築する必要がある、そのためには効果的かつ継続した教養を組織を挙げて行っていく必要がある。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由や期待する効果 など</p>	